岐　阜　新　聞　　2015年（平成27年）5月28日 木曜日　（日刊）

岐阜新聞

古材を梁や柱に活用
「経年美」で趣ある家に

環境意識の高まりや古いものを大切に扱う考え方が見直される中、古材が注目されている。築100年前後の古材を再加工した梁（はり）や板、柱などの部材が、新居やリフォームした部屋にぬくもりと落ち着きを与えるとして人気を呼んでいる。

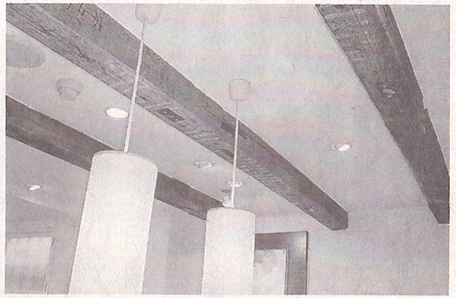
木は山で100年、古民家で100年、さらに古材で100年使い込める。

創業150年の木材卸商の丸嘉（まるよし）（京都市伏見区）の５代目、小畑隆正さんは、古民家から採取した貴重な国産木材を商品化している。さらに加工し直すことで独自規格の部材にして、異なった樹種の木を組み合わせ、モダンなテーブルやカウンター、システムキッチンとして提供する。

その魅力は「経年美」として、新しい木材にはない時間の経過がもたらした表面の傷みやキズが独特の味と趣を醸し出している。

新築やリフォームの住まいやレストラン、雑貨店などの建築デザインに古材を取り入れたケースを紹介しよう。

例えば、２階の吹き抜けの天井に数本の古材の丸太梁を入れてみる。真っ白な天井に堂々とした古材梁は迫力たっぷりだ。新しい空間に古いものをあえて取り入れることで落ち着きが生まれる。



古材を天井の梁に効果的に用いた店舗

小畑さんは「日本はもともと木の国。その命を身近な暮らしのなかに取り戻すことが大切」と強調する。